



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

資料室 ニュース

Vol.34
2008年1月10日
●発行●

特集 「阪神・淡路大震災とまちづくり」

今回は、「阪神・淡路大震災とまちづくり」について取り上げます。震災後のまちづくりの取り組みを当センター所蔵の関連資料とともに紹介します。



異例の「2段階方式」都市計画

阪神・淡路大震災では、約64万棟という家屋が全・半壊などの被害を受けました。生活復興の中で、被災者が求めていたのは、「住まい」の再建でした。

1995年3月17日には、兵庫県は、各被災地自治体の都市計画事業（区画整理や市街地再開発など）の決定を行いました。震災の混乱のさなかの決定に、市民の不安や反発が広がりました。そのため、兵庫県都市計画地方審議会では、都市計画決定は大枠を示す「骨格」と位置付け、具体的な計画案は住民と協議をしながら、後日決定するという異例の「2段階方式」が採用されたりもしました。



神戸市長田区の新長田駅北地区に整備されたコミュニティ道路には、防火用水としても利用できる水路「せせらぎ」が設けられています。

住民主体のまちづくり

都市計画を実施するため、行政との交渉窓口の役割を担ったのが「まちづくり協議会」です。

「まちづくり協議会」は、住民が協議し、「まちづくり構想」をまとめ、「まちづくり提案」を市に提出します。その提案の変更の積み重ねで、計画は進められました。「まちづくり協議会」は、倒壊した借家の人々の住宅確保、共同建て替えの住民合意、再建資金など、様々な課題に直面しました。その度に、勉強会や行政へ質問、議論を行い、まちづくりのビジョンを共有し合い、計画の管理なども担いました。

こうした従来の行政主導の「都市計画」とは異なる「住民主体のまちづくり」活動が注目を集めました。

● まちづくり協議会とは？

震災後、「まちづくり協議会」など、100以上の復興まちづくり住民組織が結成されました。その大半を占めた神戸市内の協議会は、1981年12月に制定した「地区計画及びまちづくり協定等に関する条例」に基づき、地区の改善を推進しました。条例に基づく協議会として市長が認定すると、専門家の派遣などの技術的援助や協議会活動の助成なども行われました。

『街の復興カルテ』で見るまちの復興状況

『街の復興カルテ』(全10冊)は、1996年度から2005年度に渡り、神戸、芦屋、西宮市と津名郡一宮町の9地区を対象に、ビルや住宅の再建状況などを、継続的に定点観測した記録をまとめたものです。各区域別の再建建物分布や人口推移、店舗の業種構成やテナントの推移など、様々な統計データの調査分析を通して、リアリティのある復興状況を把握することができます。



被災地の復興の過程を1年ごとにまとめた冊子の一部を人と防災未来センター資料室のパソコン上で閲覧できます!

資料室では、『街の復興カルテ』(全10冊)を閲覧できます。残部があるものについては、配布しておりますので、ご希望の方は資料室 (TEL 078-262-5058)までご連絡ください。

被災地住民のまちづくりの取り組み

「まちづくり協議会」を中心に、被災地住民、建築・まちづくりコンサルタント等の意見を取り入れた多彩なまちづくりの取り組みが展開されました。その取り組みの一部を紹介します。

● 災害に強く、人にやさしい道づくり～コミュニティ道路の整備～

神戸市長田区の新長田駅北地区は、ケミカルシューズ工場や住宅や商店、市場が混在し震災で大規模火災が発生、大きな被害を受けた地域でした。地域のまちづくり協議会は、「子供からお年寄りまでが安全で安心して暮らせる街の下町構想」をビジョンに掲げ、提案の一つに歩行者優先のコミュニティ道路(14m)を整備しました(表紙の写真)。この道路は、火災の延焼防止、緊急車の走行、障害者やお年寄りなどに配慮したバリアフリーで、四季の花を植えた歩道には、ベンチを設け、「せせらぎ」の水は高取山の湧水で防火用水として使用できます。

● 住み慣れた場所に住み続けるために

液状化により、傾くなどの被害を受けた尼崎市築地地区では、住民が「築地のまちづくりを考える会」を発足させ、まちづくり情報の全戸配布や建物の権利ごとの部会、委員会などを設置し、積極的な議論が交わされました。築地に住み続けたいという住民の願いに対応して、行政は、被災住民の居住を保証する住宅の建設を決定。地区内に、借家人々も9割が地元に残ることができるようになりました。

● 都市計画事業対象区域以外のまちづくりの取り組み

都市計画事業対象地域は、被災市街地全体の3%に過ぎず、それ以外は、自立復興を原則にする地域です。そのうち、神戸市灘中央地区は、1995年11月に「灘中央地区まちづくり協議会」を設立。震災後、自治会、婦人会、老人会に呼びかけ、被災調査、アンケート調査などを行い、復興構想を検討。「活力ある商業と心なごむ住環境の共生」をテーマに、シェルター(東屋)、手押しポンプ、水路などを設けた岸地通公園、にぎわいの通りなどを整備したほか、2002年には支援拠点「新・まちづくりハウス」を開設し、エコタウン運動、交流イベント、通信発行などの活動を精力的に行ってています。

所蔵資料から見る復興まちづくり

当センターには、まちづくり協議会やまちづくり支援グループ、住民などが寄贈した会議資料、説明会のチラシ、まちづくりニュースなど、多くの資料が収蔵されています。その中から、以下の資料を紹介します。



御菅カルタ

震災で約8割消失という大きな被害を受けた神戸市長田区御菅通5を拠点に、まちづくり支援活動をしているボランティア団体「まち・コミュニケーション」が作成したカルタです。

神戸市長田区の御菅地区（御菅通、菅原通）の住民など関係者を対象に、2003年に「御菅の街」をテーマに読み札を募集。小学校1年生から88歳までの63組（複数人数での応募があるため「組」）が応募した句のうち65句に、65組が絵を付け、完成させました。

「カルタを通じて、地域の魅力や震災に対する思いを共有し、世代を超えた交流の場が作れれば」と制作した「まち・コミュニケーション」スタッフの戸田真由美さんは話しています。

「類焼とめて尚生き残る楠の大木」「『お久しぶり』出会う知人も遠くなり」など、街への想いを綴ったカルタ。「御菅カルタ」のお問い合わせは、「まち・コミュニケーション」
(TEL078-578-1100)まで。



関連図書・ビデオの紹介

復興まちづくりや支援活動などに関する図書・ビデオを紹介します。いずれも資料室に所蔵しており、閲覧・視聴できます。

ビデオ



『再生の日々を生きる』

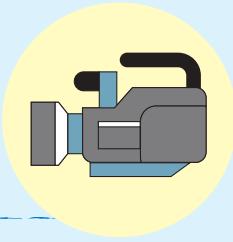
神戸市長田区野田北部は、家屋の3割が全焼、7割が全半壊、死者41人という大きな被害を受けました。同地区的コミュニティア再生のプロセスをまちづくり協議会の活動を中心に記録した長編ドキュメンタリー作品。
(青池憲司監督、2時間36分)

| 題名 | 著者・記事作成者 | 発信者・発行者 |
|--|-------------------------------|--|
| 新長田駅北地区東部復興記録誌 震災から10年第1・2巻 | 新長田駅北地区東部復興誌 編集委員会 | 新長田駅北地区東部まちづくり 協議会連合会 |
| 阪神大震災復興市民まちづくりvol.1～vol.8 | 阪神大震災復興市民まちづくり 支援ネットワーク事務局 | 学芸出版社 |
| 真野まちづくりと震災からの復興 | 阪神復興支援NPO編 | 自治体研究社 |
| 阪神・淡路都市復興基本計画 －安全で安心な都市づくりをめざして－ | | 兵庫県都市住宅部 |
| 阪神大震災と自治体の対応 | 高寄昇三 | 学陽書房 |
| 復興まちづくりと防災まちづくり ～阪神・復興まちづくりの課題と東京・防災まちづくりの方向～ | | 日本建築学会兵庫県南部地震特別研究 委員会特定研究課題WG 4・5・6 |
| 震災復興まちづくりへの模索 | 坂和章平・中井康之等 | 都市文化社 |
| 復興まちづくりの時代－震災から誕生した次世代戦略 | 佐藤滋・真野洋介・饗庭伸 | (有)グッド研究所 |

イベント情報

震災映像資料の上映会

『阪神・淡路大震災の記録～発生から3日間』



防災未来館のリニューアルを機に、当センターが保有している震災映像資料の上映会を開催します。

第1回目は、震災直後から3日間の神戸市内の様子を、市民や神戸市広報課職員・県警・報道機関などが撮影した映像を基に、当センターにおいて研修用に編集した映像「阪神・淡路大震災の記録～発生から3日間」を上映します。

日時 平成20年1月12日(土)

1回目 午後2時～ 2回目 午後4時～

参加無料

- 上映時間：約30分
- 場 所：人と防災未来センター防災未来館5F
プレゼンテーションルーム
※当日直接会場にお越しください。
- 問い合わせ先：人と防災未来センター資料室
TEL 078-262-5058

資料室移転のお知らせ

防災未来館のリニューアルに伴い、資料室は5階に移転し、リニューアルオープンいたしました。新資料室では、ガラス窓から外の景色が見渡せる開放的な空間の中で、資料をご覧いただけるようになりました。

震災・防災関係の資料に関する相談なども行っておりますので、ぜひご利用ください。



震災資料のご提供について

人と防災未来センター資料室では、阪神・淡路大震災の記憶を風化させることなく、被災者の想いと震災の教訓を資産として共有し次世代に継承するため、震災や防災に関する資料を収集・公開しています。

震災後に配布されたチラシ、メモ、避難所で使われたもの、写真、映像などの資料をお持ちの方は、お気軽に資料室（**TEL 078-262-5058**）までご相談ください。



(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念

人と防災未来センター 資料室 (防災未来館2F)

資料室は無料で
お入りいただけます

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL.078-262-5058 FAX.078-262-5062

HPアドレス <http://www.dri.ne.jp>

開室時間 9:30～17:30(7月～9月は18:00)

閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 12月29日～1月3日